文化財をたずねて

No. 20

折方・鷆和地区の文化財めぐり

発行　赤穂市教育委員会
編集　生涯学習課文化財係
（赤穂市加里屋81　TEL 43-6962）

折方の集落は、大津川の河口部、三方を山で囲まれ、東に開けた谷あい地に位置する。集落の南部にある天神山には、かつて横穴式石室を主体部とする７世紀頃と考えられる古墳が存在していたが、昭和41年（1966）以降の土取りと宅地化のため消失した。しかしながら、折方で知られる唯一の古代遺跡であり、早くから人びとの生活が営まれていたことがわかる。折方の地名の由来は詳らかではないが、江戸時代の記録には「織潟」「織方」があり、小字名に「機ヶ谷」「船ヶ谷」があることから、山地では機が織られ、平地は干潟であったことに由来するといわれている。慶長16～17年（1611～1612）の『慶長播磨国絵図』には「おりかた」とある。

鷆和の集落は、大津川の河口部西の山裾に位置する。鷆和では古代遺跡の存在は知られておらず、中世になってようやく村落が形成されたと考えられる。地名は、明治９年（1876）に真木村と鳥撫村が合併したことにより、頭字の「真」と「鳥」を合体させた「鷆」を選び、仲良く発展しようと「和」をつけた新地名である。鳥撫・真木の地名の由来は不明であるが、『慶長播磨国絵図』では「となて」「牧」とある。

折方村・鳥撫村・真木村ともに、もとは宇喜多氏領であり、慶長５年（1600）姫路藩領、同18年（1613）岡山藩領、元和元年（1615）赤穂藩領、元禄14年（1701）幕府領、同15年（1702）からは再び赤穂藩領となった。『天保郷帳』では、折方の石ヶ崎が独立した村として「石ヶ崎村」の村名が見られる。折方は、浅野家の知行地であったとき、戸島新田村の開発のために大津川堤防が築かれたことによって、東の塩田の地域と西の農村部に２分されたようになった。

折方・鷆和ともに、明治22年（1889）には塩屋村の大字となり、昭和12年（1937）からは赤穂町の、昭和26年（1951）からは赤穂市の大字名となった。折方の西部の産業地帯は、昭和58年（1983）に「西浜北町」として分かれた。

権現神社跡

赤ノ峠の地蔵

①権現神社跡

由来は不明。祭神は不明。かつては、折方村の奥地区で祀られていたが、明治40年（1907）頃に折方八幡神社に合祀され、石造物の多くは八幡神社に移設された。跡地には、石段・拝殿の礎石・本殿の石垣・石燈籠の基壇・手洗石などが残されている。享保12年（1727）に藤江忠廉が著した『播州赤穂郡志』には、「権現宮峰相記に文保二年（1318）あまくたるとあり、山林境内七十間（約126m）六十間（約108m）除」とある。

②赤ノ峠の地蔵

像高87cmを測り、台石には「弘化二乙年（1845）巳正月」の銘がある。かつては旅人の安全を願って備前国（現在の岡山県）へ抜ける寺山街道に通ずる赤ノ峠の８合目に建立されていたが、峠を通る人も少なくなり、昭和54年（1979）２月18日堂宇新築の際、現在地に移し安置された。

機ヶ谷池の記念碑と地蔵

③機ヶ谷池の記念碑と機ヶ谷池の地蔵

池の堤の西側に建立された記念碑には、機ヶ谷溜池の造成と約7haに及ぶ水田開発の大工事が、大正5年（1916）に着工され、昭和5年（1930）に完成したとある。

この記念碑の横に、機ヶ谷池の工事犠牲者の冥福と、池の安全加護を祈願して祀られた丸彫りで右手に錫杖、左手に宝珠を持つ立像地蔵が安置されている。像高80cmを測り、背には「昭和二十三年（1948）九月建」の銘がある。

折方八幡神社

④折方貝殻出土地

畑の開墾中に発見されたもので、現在でもハイガイ・アサリなどの貝殻が、多量に堆積している。

⑤折方八幡神社

由来は不明、祭神は仲哀天皇・応神天皇・神功皇后。かつては、折方村の田中・南・奥・砂子・石ヶ崎の各地区ごとに八幡神社・荒神社・権現神社・天王神社・天神社が祀られていたが、明治40年（1907）頃に八幡神社に合祀された。

参道・境内には、各神社から移設された多数の石造物がある。拝殿には、明治45年（1912）に北條文信が描いた義士画像図絵馬が奉納されている。『播州赤穂郡志』には、「八幡宮　山林境内五十間（約90m）六十間（約108m）、下畑一反（約990㎡）寛永二巳年（1625）除地」とある。

天王神社跡

⑥天王神社跡

祭神は牛頭天王。由来は不明。『播州赤穂郡志』には、「天王宮境内一町（約100m）四方除地」とある。かつては折方村の砂子地区に祀られていたが、明治40年頃に折方八幡神社に合祀された。跡地には本殿・拝殿の石垣や石段、手洗石が残されている。夏に日照りが続いたときは、千種の鍋ヶ森神社から火種を貰い、ここでお祓いを受けた後、天王山の頂上で雨乞いの神事が行われた。

大成山浄専寺

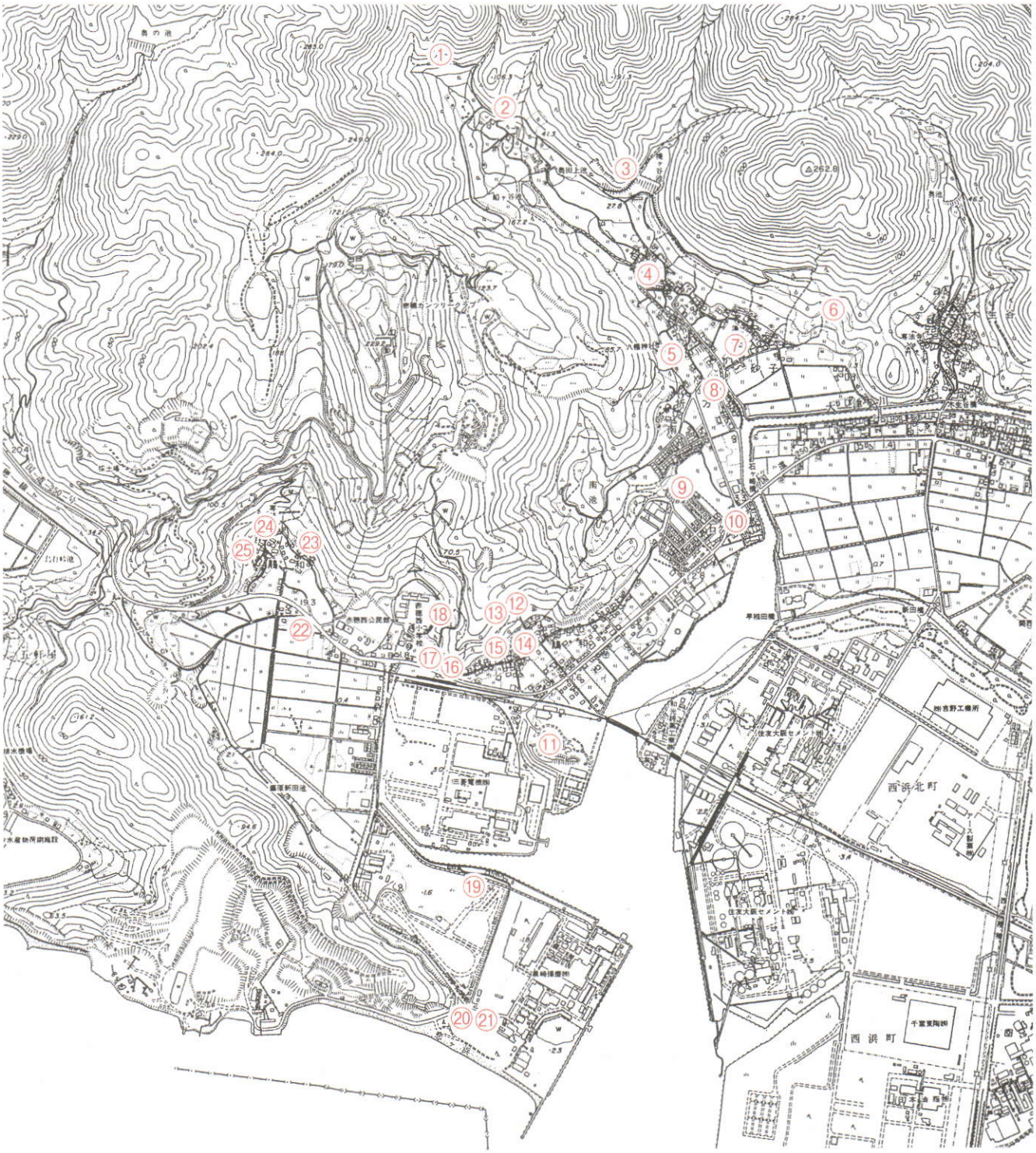
⑦大成山浄専寺

阿弥陀如来を本尊とする浄土真宗本願寺派の寺院。永正3年（1506）、本願寺8代の蓮如上人に帰依し、尊号を申し受け開基したと伝えられる。境内には本堂をはじめ、鐘楼・庫裡・書院・山門（四脚門）・薬医門（通用門）がある。

折方橋の地蔵

⑧折方橋の地蔵

折方橋の正面に建立されていたが、道路拡張計画のため、昭和49年（1974）8月に堂宇を新築して現在地に移された。像高60cmの座像地蔵は、男子出産を祈願すると、必ず男の子が生れるといわれ、神戸・姫路方面からも参詣する人があった。



①権現神社跡　②赤ノ峠の地蔵　③機ヶ谷池の記念碑と機ヶ谷池の地蔵
④折方貝殻出土地　⑤折方八幡神社　⑥天王神社跡　⑦大成山浄専寺
⑧折方橋の地蔵　⑨水神宮　⑩恵照院　⑪戸島と船番所跡
⑫鳥撫荒神社　⑬銭島八幡神社　⑭鳥撫の道標　⑮観音堂（日々庵）
⑯延命地蔵　⑰鷆和耕地整理記念碑と真木開拓記念碑　⑱田ノ浦貝塚
⑲藤原兵太郎翁頌徳碑　⑳恋ノ浜の石碑　㉑播磨・備前国境の石碑
㉒真木地蔵　㉓真木荒神社　㉔大谷山専修寺と簡易水道敷設完成記念碑
㉕真木貝塚

※　見学にあたってはマナーを守り、所有者・地権者の迷惑にならないようにお気をつけください。

水神宮

⑨水神宮

西ノ井の端、天神山の山裾にあり、石ヶ崎集落の水瓶として古くから利用されていた。集落の水道としては赤穂では早く、昭和10年（1935）には簡易水道として完成した。天神山地区の造成によって埋没するのを避けるため、造成中の10年間は個人宅の大岩の脇に移転され、完成後に現在地に祀られた。傍らには、旧井戸の側石を使った石碑が建てられている。

恵照院

⑩恵照院

臨済宗妙心寺派の寺院で、宝暦元年（1751）、加里屋の随鷗寺5世照山の隠棲として建立され、釈迦牟尼仏、観音菩薩、稲荷を祀る。観音菩薩像は平安末期の作といわれ、九州辺りの人の作と伝えられ、菩薩が老婆の夢に現れ、海から拾い上げて祀ったという伝承がある。境内に安置される3体の地蔵は、昔から「乳の地蔵」と呼ばれ、育児の無事成長を願う女性の参詣が多い。

戸島と船番所跡

⑪戸島と船番所跡

赤穂浅野家の初代藩主浅野長直は、赤穂城築城にあたってこの戸島から石垣に使用する花崗岩を採掘させ、新田開発の折りにも、この地の土を採取して約97ha の水田を開いた。また、この地に船番所を設け、瀬戸内海航行の船を監視したという。

明治41年（1908）に私立赤穂郡教育会が発行した『赤穂郡誌』には、かつて銭島（銭戸島）のある戸島から綱崎までは、天橋立を彷彿とさせる風光明媚な景勝地であったと記されている。

鳥撫荒神社

⑫鳥撫荒神社

祭神は素盞嗚命。大宰神社・銭島八幡神社を合祀。境内には、「大正八年（1919）十月」銘の備前焼の狛犬がある。10月の例大祭に舞う獅子舞は、平成8年（1996）に市の無形民俗文化財に指定されている。また、境内下には「カワ」と呼ばれる湧水がある。

鳥撫の道標

⑬銭島八幡神社

慶長5年（1600）播磨国の領主となった池田輝政は、翌年赤穂郡代に垂水半左衛門を任命し、領国西南端の守護神として弁財天・住吉・八幡を銭島（銭戸島）に祀った。その後、東浜の塩田開拓のため、慶長10年（1605）に八幡神社の御神体は、尾崎の地（赤穂八幡宮）に移され、社は鳥撫荒神社の西に移された。

⑭鳥撫の道標

かつて、ここは播磨と備前を結ぶ金毘羅街道に通じており、海岸通りの道路案内として、おそらくこの付近に建立されていたと思われる。高さ56cm、幅28cmを測る花崗岩製で、「右　かたかみ」「左　は（ハ）満」「道」とある。

⑮観音堂（日々庵）

元は銭島（銭戸島）にあったが、昭和32年（1957）現在地に移された。千手観音像を祀る。堂前に建つ「日々庵」の石碑には「天保五甲午年（1834）正月八日」「施主　木生谷栄三郎　根々子小治郎」の銘がある。

観音堂（日々庵）

⑯延命地蔵

像高81cmを測り、両手で宝珠をもった丸彫りの座像地蔵。台石の正面には「延命地蔵菩薩」、右側面に「昭和二十八年（1953）建之」の銘がある。

延命地蔵

⑰鷆和耕地整理記念碑と真木開拓記念碑

大正元年（1912）に耕地の拡大が計画され、翌年８月31日に耕地整理が竣工された。これまで約17ha の耕地は約58ha となり、出稼ぎに行かなくても生活は豊かになった。この恩恵を記念して、大正13年（1924）６月に、岡山県福河村の福浦に生まれた漢学者水利有終によって撰された碑を建立したものである。

右横には真木の開拓を記念して明治18年（1885）に建立された石碑がある。真木の国道沿いにあったが、国道改良工事に伴って現在地に移転された。

鷆和耕地整理記念碑と真木開拓記念碑

⑱田ノ浦貝塚

昭和50年（1975）赤穂市立赤穂西小学校の用地造成時に発見され、ハイガイ・アサリ・ハマグリなどの貝類と土師質土器などが出土し、室町時代頃の貝塚と思われる。

⑲藤原兵太郎翁頌徳碑

藤原兵太郎は、私財を投じるとともに身をもって土木工事に精励し、かつては湿地帯であったが、約20ha の新田開拓を行った。開拓地は、兵太郎の姓を取って「藤原新田」と呼ばれ、新田居住者は兵太郎の功績を讃え、昭和11年（1936）に頌徳碑を建立した。

藤原兵太郎翁頌徳碑

⑳恋ノ浜の石碑

綱崎にある恋ノ浜は、美しい自然の砂浜で、かつては海水浴や、潮干狩り、キャンプなどで賑わった。恋ノ浜の名前の由来として次のような話が伝承されている。

昔、この海辺に漁を生業とする若い夫婦が仲睦まじく暮らしていたが、嵐の日にもかかわらず夫は漁に出て行き、夫は帰らぬ人となってしまった。その後もしばらく夫を偲び嘆く妻の姿が見られたが、やがて夫を恋慕う妻は、海に入水して果てたという。

砂浜に出るまでの道の傍らに「恋能者満」の石碑が建てられている。大胆な筆致で、４文字中３文字を万葉仮名とした非常に珍しい石碑である。

この碑から少し離れたところに１基の供養碑がある。碑の正面

恋ノ浜の石碑

播磨・備前国境の石碑

中央には「梵字（キリーク・阿弥陀）　寒霜浄船信士霊位」とあり、その右に「承應三年（1654）生国 平安城中 御ヵ美ヵ」と、左に「極月（12月）九日 住国 芸州　北川仁左衛門」とある。

㉑播磨・備前国境の石碑

江戸中期に建てられた播磨国と備前国の国境を示す石碑である。石碑は南に突出した綱崎に建てられ、高さ約180㎝、幅・奥行とも30.8㎝を測り、正面に「従是取揚島見通シ　東播磨國　西備前國」、右側面に「従是　東播磨國　従是　西備前國」と刻まれている。南沖に見える取揚島にも同じ国境の石碑がある。

鵤和の西に隣接していた岡山県日生町の福浦地区は、昭和38年（1963）９月に赤穂市と合併し、兵庫県に編入されたが、この石碑と取揚島の石碑、福浦の真尾鼻の突端を結んだ海域は、現在も岡山県域となっている。

真木地蔵

㉒真木地蔵

像高84㎝を測る半跏像。台石正面には「南無阿弥陀仏」と刻まれている。右手に錫杖、左手に宝珠を持つ。鳥打峠の頂上より10ｍ東によった街道の北側に建立されていたが、昭和45年（1970）頃に堂宇の新築の時、現在地に移された。

真木荒神社

㉓真木荒神社

祭神は素盞嗚命で、八幡神社を合祀する。境内には「宝暦六丙子年（1756）九月二十四日」銘の石燈籠や、備前焼の狛犬などがある。真木の峠の南方には、合祀された八幡神社の御神体が流れ着いたとされる大きな自然石が今も残されている。

大谷山専修寺

㉔大谷山専修寺と簡易水道敷設完成記念碑

浄土真宗本願寺派の寺院で、本尊は阿弥陀如来。織田信長が加賀越前を攻めた折りに高田専修寺（本山は三重県津市一身田町、本寺は栃木県真岡市高田）より分かれて逃れ、本地に移り住んだといわれる。寺号の由来は、浄土系宗派の特徴である専修念仏による。境内には山門（薬医門）・本堂・鐘楼・庫裏がある。

境内地の北西には、大正13年（1924）３月に荒尾太郎吉らによって、大池の水の流れを利用して専修寺裏に水源となる溜池がつくられ、飲料水としての簡易水道が完成した簡易水道敷設完成記念碑が建てられている。

簡易水道敷設完成記念碑

㉕真木貝塚

真木集落の西方の山裾斜面に位置する。広さは100㎡以上に及んでおり、ハイガイを主体にアサリ・ハマグリなど11種類の貝殻が廃棄されていた。一緒に出土した壺形土器の年代から室町時代頃のものと思われる。

（調査協力者：岡田順一・沖照幸・正木美佐恵）